No.24
2005. 09. 01

地球の木

地球上のすべての人たちと共に生きたい

CONTENTS

●一緒にできることが何かあるはず……1
●韓国からの声……2
●フィリピン・ラオス・ネパール……4～5
●多文化共生の街サンフランシスコから……6
●あーすフェスタかながわ……6
●初めてのアジアンフェア体験……6
●スタッフが変わりました……7
●ヨッコのグローバルeye……7
●活動報告……7
●INFORMATION……8

日韓友情年 2005

日韓開発教育交流

一緒にできることが何かあるはず

事務局長　筒井由紀子

全日程を終え、充実感いっぱいの参加者たち（前列右から3人目が筆者）

地球の木では6月、韓国NGO「地球村分ち合い運動」の「市民学校」の先生たち6名を日本へ招聘しました。北朝鮮への人道支援を行う中で知り合った「地球村分ち合い運動」は世界の貧困解決と市民社会の発展を目標として1998年に設立された国際協力団体です。ベトナムやモンゴル、イラクへの支援を行っています。2000年に来日したスタッフから「市民学校」の話を聞きました。「市民学校」とは、支援地であるベトナムやモンゴルの歴史や文化、人々の暮らしなど10の講座を受講した人たちが最後に現地へのスタディーツアーに参加し、その後「名誉教師」となって学校へ出向いて国際理解教育を行うというプログラムです。しかも、その中心を担うのはオンマ（お母さん）らしいと聞き、「ぜひその人たちに会ってみたい」と2002年の夏に事務所を訪ねました。迎えてくれたのは見た目もパワフルで元気な女性たち。お互いの活動を紹介した後「今度はぜひ地球の木へ来てくださいね」と言って別れました。そして2003年、別の会議で来日した「市民学校」の人たちが、今度は地球の木の事務所を訪れましたが、開発教育のことなど話はつきませんでした。マジカルバナナを購入し、会員にもなってくださり、「ぜひ開発教育交流を実現しましょう」と約束してから2年。韓流ブームもあり、韓国への関心が高まっているこの機会を生かして今回の「日韓開発教育交流」が実現しました。

話は決まったものの、この春は日韓関係が「竹島」や靖国・教科書問題など決して良好とはいえない状況でした。新聞は連日韓国のデモの様子を書き立て、新聞の世論調査では「韓国人の70%が日本人を嫌いである」と書いていました。「本当に韓国の人たちは来てくれるのかしら…」と準備をしながら不安になることもありました。しかしそんな中、韓国からは「皆、日本へ行くのを楽しみにしています」というなんとも嬉しいメールが返ってきたのです。国と国の関係を越えて、市民と市民が「顔の見える交流」を行うことの大切さをこの時しみじみと感じました。

こうして実現した「日韓開発教育交流」は、反響も大きく、予想以上に地球の木の輪を広げてくれることになりました。会員の皆さんはもちろん、日本人男性と結婚した来日16年になるという韓国人女性が、通訳のボランティアを申し出てくださったり、韓国人留学生、そして在日コリアンや朝鮮学校の先生など、日本と朝鮮半島に関わる様々な立場の人がたくさん「開発教育交流ワークショップ」に参加してくれました。盛りだくさんの内容はもとより、ワークショップ自体がとても貴重な出会いの場となったのです。

「どこの国の人たちとも知り合い、仲良くなれるよう子どもたちを育てたいという人たちが韓国にもいるのを知ったことがちょっぴり驚きであり、またとても嬉しく、励みになりました」ワークショップで一番多かった感想です。まだ、始まったばかりのこの交流ですが、「開発教育」をキーワードにしながらも私たち自身が多くのことを学び、気付く貴重な機会であることは間違いありません。

この交流は相互訪問です。10月には韓国を訪問し、「マジカルバナナ」を披露してきます。たくさんの出会いからいろいろなことを学んできたいと思っています。

Korea-Japan Friendship Year 2005

■発行 特定非営利活動法人 地球の木 理事会 ■発行責任 丸谷士都子 ■編集 広報部 ■事務局 〒231-0032 横浜市中区不老町1-3-3フェニックス関内2F
■TEL 045-228-1575 ■FAX 045-228-1578 ■E-Mail:chikyunoki@e-tree.jp ■http://homepage1.nifty.com/EarthTree

韓国からの声
「貴重な体験に感謝」「これからも共に歩みましょう」

日本を訪問した「地球村分ち合い運動」のメンバーたちから感想が届きました。皆まだ30代の若い母親たちです。それぞれの似顔絵とともに文章から彼女たちの個性や様子がみなさんに伝わることと思います。文章は、開発教育担当スタッフで、日本に留学経験もあるパクミョンヒ（朴明姫）さんによって日本語に訳され送られてきたものです。

日本滞在スケジュール		
6月16日	午前	成田到着
	午後	JVC、JICA訪問、地球の木歓迎会
17日	午前	平楽中学校訪問、地球の木事務所へ
	午後	オルタトレード、開発教育協会など訪問
18日	午前～午後	ワークショップ（ホームステイ）
19日	午後	成田より帰国

「ワークショップって楽しい！」

たくさんの収穫

会長キム　ウンヒ（金　恩姫）

私は今まで市民学校の会長として、前回の日本訪問でわいた市民学校の活動への意志と情熱を分かち合える仲間がいなくて悩んだりもしていたので、今回は、訪問が初めてである他のメンバーとはすこし違う心持で出発した。
しかし今回の日本での交流は、彼らにフレッシュなアイディアを与え、それぞれの個人の能力を開発するきっかけになったであろう。それぞれの出発点が違い、各自の速度が違っても、彼らがいろいろな困難をいっしょに乗り越えていく真の仲間になってくれると信じている。

NGO団体を訪問

あちこちへ移動する道中はくたびれたが、途中は鮮やかな日本人の生活の一部を体験できる貴重な時間でもあった。私たちが悩む市民学校運営のために、各団体から具体的で計画的な話を聞き、今後多くの助けを借りる事ができるプログラムとアイディアを得ることができた。

土曜日のワークショップ

日本の地球市民教育に関心がある一個人として体験を楽しみにしていた。ワークショップでは、地球市民教育の展開の難しさ、さらに現在の教育の保守性、柔軟性の欠如、財源の貧しさなどといったことを共有することができたし、体験した教材活用及び教材開発のアイディアなどを得ることができた。

ホームステイ

いつまでも心に残るであろう体験だった。滝口さんご一家と一緒に自分の家のように楽しく友だちのように過ごした一晩は、日本の国を見るまた別の私の目を作ってくれた。

これから、持続的に両国相互訪問ワークショップが開催されることを望み、また約束した共同での教材製作を実現させたいものである。
今回の私たちの訪問に際し、繊細な思いやりと深い関心をもってすべての準備をしてくださった地球の木スタッフ、会員の皆さんに深く感謝している。

若々しく見えるわけは

ウン　グンヒ（殷　槿姫）

私のような主婦には、旅行というのは三食を作らなくてもよい日常からの脱出であったが、今回の日本訪問には各NGO訪問、ワークショップ参加というちょっと重たい荷物があった。

しかしそれは、家族の一構成員という範疇を越すグローバルな人間としての体験であり、言語は違うが同じ考えをもった人たちに会え、その方たちの情熱を直接感じることができたので、主人と子どもをおいて日本に行った後ろめたさに勝るものであった。

日本へ行ってわかったことは、皆さんの活動が自分の住む地域に基盤を置き、身近なところから問題意識を持って出発しており、主婦中心である事がそれを支えているということである。特に印象に残ったのは、「活動の難しさをどういう風にのり越えますか？」という私たちの質問に対し、「いま私はどうしてこんな事をしているかということを自らに問い、それは地球のためであるという明快な答を仲間たちと共有する」ということであった。その方たちの情熱のあるまぶしい姿を見ると、みんなが若々しく見える理由がわかるような気がした。

地球の木事務所にて

文化や歴史も学びたい

ハン　スク（韓　淑）

日本に行く前は、国際理解教育資料だけちょっともらって、あとは観光をすればよいと思っていた。ところが多くのNGO団体を訪問するごとに使命感が生じてきた。「地球の問題はまさに私の問題だから私が解かなければならない」と…

そして地球の木の方々に接して、今まで分かろうともしなかった近くて遠いお隣り“日本”に対する兄弟愛みたいなものが生じた。このような交流が続き、お互いの情報を交換し、各国支援、市民・次世代教育、政策提言などで協力が成り立ったならばと思う。特に“地球市民教育”資料を共有してこれから育つ子どもたちが地球の問題を自分のこととして感じるように教育することに力を尽くせたらと思う。

個人的には、ホームステイをして韓日問題や世界あちこちの紛争問題が多くは政治家たちの問題であって、実際国民は、他の国の文化と歴史も尊重し、大きな関心を持っていることが分かった。イラク戦争の話や日本の自衛隊問題、神風特攻隊の話を交わした乳井さん宅。　娘のあきさんが日本に住むコリアンやフィリピン人などの外国人が自国の文化と歴史に自負心をもつようになる仕事をしたいというのを聞いて、母親の影響が子どもに与える大きさを実感した。

今回の訪問でとても残念だった点は、相手国の文化や歴史に関する話を交わす機会がないことだった。これから交流する時は、お互いにはあまり知らない文化や歴史を感じるプログラムが必ず入っていたらと思うのである

一歩踏み出す心

ファン　ヨンジュ（黄　年珠）

実は出発前、私は日本という国に対する好奇心もあったが、見知らぬ人々に会うという負担も大きかった。ところが成田空港に出迎えにきた筒井さんと広瀬さんに会うと、私の考えは杞憂に過ぎないことがわかった。いつも会うとなりのおばさんらのように気楽で、親しみを感じ、初めて会った人たちとは思えなかった。こんな風に始まった3泊４日の日本訪問は他の世の中を見、私自身を振り返ることができる貴い時間であった。

多くのNGOを訪問したが、そこで活動するのは大部分が女性という点とママという柔らかさの中に堂々さをもって生きている姿が印象的だった。そして長年持続的に活動している彼女たちを見ながら、私もあのようにいきいきと年をとれたらと思った。住み易い世の中を作ることはどこから始まるのだろうか？私たち一人ひとりの意識変化だけが、すべての人が平和に暮らすことができる世の中を作る近道ではないかと思う。そしてその意識変化を分けあうことで始まると思う。地球のどこかに私のような心で、より良い世の中を夢見て一歩踏み出している誰かがいるということを確信している。

平楽中学校を訪問して

チャ　ウンジョン（車　恩姫）

国際教育を始めて６年目になるという中学校を訪問したが、その学校には外国籍生徒が全体の10％位おり、国際教育が必要だったという。当面する問題を把握して必要な事を行っていく教育が成り立つのは良いと思った。しかし政府は生徒たちの主要科目の学業成就度が低いことを問題視しており、学校で国際教育の時間が減るのではないかと懸念している。そのような問題はわが国の状況と似ている。

小さい時から地球市民としてみんなが一緒に生きていく必要と姿勢を学ぶことが、重要だということをもう一度考えさせられる時間であった。

地球の木の説明を受ける一行

ホームステイを受け入れて

身近になった韓国

滝口　みち（横浜とうぶ会員）

地球の木とはもう長いおつきあいになります。とは言っても、会費を払って、会報を送ってもらうだけ、という頼りない会員ですが。

今回ホームステイをお引き受けしたのは、会報に「韓国からのゲストのホームステイ先募集」とあったのを、偶然見つけたからです。韓国には以前から関心がありました。韓国語は全然できませんが、一泊ぐらいなら何とかなるかな、と思ったわけです。我が家に来て下さったキムさんは、とても明るくて積極的で素敵な女性でした。幸いキムさんは英語も話せる方で、会話はほとんど英語で行いました。私が、韓国の暮らしについて色々質問したのに対して、一生懸命答えて下さったのが、印象的でした。例えば、息子さん達は受験勉強のため塾に通っていて毎日遅く帰って来ることとか、家にはキムチ専用の冷蔵庫があることとか、マンションだけれどオンドル（床暖房）があることとか。テレビからでは分からない、韓国の人たちの当たり前の暮らしが身近に感じられて、ますます韓国が好きになりました。こんな素晴らしい体験ができて、地球の木に感謝しています。

この地球の木という名前がいいな、と思いませんか。大地にしっかり根を下ろし、枝を広げ木陰をつくり、少しずつ年輪を重ねながら着実に大きく育つというイメージが、地球の木の活動を表すのにピッタリだと思います。これからも、この木の小枝（？）として、関わっていけたら、と思っています。

フィリピン
活躍する女性たち

この夏JCNC(日本ネグロスキャンペーン委員会）の現地駐在員、大橋成子さんが帰国され、昨年度からネグロスへの支援を始めたNPO法人WE21ジャパンと共催で報告会を開催しました。

一緒に来日した 現地NGO PAP21のマーケティングと女性プログラム担当のジャニス・ガドヤさんから、家族農業のモデル農家がどんどん増えていること、女性の活躍が大きいとの報告、また大橋さんからは来年2月に20周年を迎えるJCNCの始まりから今までの話をしていただきました。地球の木は1992年から元砂糖農園労働者の自立を目標に支援をしてきましたが、ネグロスへの長い支援の歴史は何度聞いても「そうだったんだ」と再確認することができ、よかったという感想が聞かれました。

ご存知のようにネグロス島は砂糖きびプランテーション島で、約20年前に、国際的な砂糖価格の暴落で14万人の子ども達が飢餓にさらされました。また同じ頃アフリカでも飢餓が深刻となり、「緊急援助」キャンペーンが日本や欧米の各国で展開されました。しかしその援助が必要としている人には届いていない、アフリカに送られた毛布が海岸に野ざらしになっている事が大問題になり、「支援のあり方」が世界的に議論された時期でもありました。以来ネグロスはマスコバド糖やバナナの民衆交易、そして砂糖労働者から自営農業、家族農業へと風景を変えてきましたが、いつも根っこにあり問われてきたのは「支援のあり方」でした。「支援する、支援される」という関係を超えて、双方の心を同じくする人々が「自立」に向けてどう「共生」していけるか。一方にだけ変化を求めるのではなく両者が変わらなくてはならない、ということであり、私たちはいつもそのことを頭において考えていかなければなりません。

報告会の後、ジャニスさんは、大和のワーカーズコレクティブ・惣菜屋「とと・菜・とっと」やリサイクルショップ、生活クラブのデポーを訪れ、熱心に見学しました。ジャニスさんは今新しくバコロド空港の近くに、有機野菜の店を開き、責任者として忙しく頑張っているそうです。来年1月にスタディツアーを企画していますので、元気なジャニスさんに会いに行きませんか。

大橋さんは、6月に「ネグロス・マイラブ」という本を出版、ご主人のフレッドさんと東京で出版記念パーティも開きました。それは、たくさんの友達が集まり料理も手作りという、大橋さんの人柄が出た暖かいものでした。本には、ネグロスの家族の事や村の人々との暮らしがとても楽しく書かれており、歴史的な事や難しいフィリピンの国情についてもスーッと読むことができます。事務所にありますので是非読んでみてください。　（フィリピンチーム　廣瀬　康代）

5人の子持ちと結婚した大橋さんの痛快物語

在フィリピン日本女性の泣き笑い

共に暮らして変わった大橋さんの目線！見えてくるネグロスの真実

「ネグロス・マイラブ」発行めこん、1,600円（税別）

ラオス
皆で学ぶラオス

「ラオス概説」をテキストにラオス勉強会がたけなわです。
農業、歴史、経済、文化、宗教、村のくらし、言語、民族と単元別にそれぞれ担当者が受け持ち、解説します。本格的にやろうとすればとても私たちの手に負えるものではないのですが、私たちのレベルで確実な一歩にしたいと思い、講師を頼まずスタートしました。

それは、みんなで音読で読みまわして疑問や感想を言い合うもので、一人で本を読むのとは違っていろんな視点を気づかされます。必要なのはラオスに対する気持ちだけです。

前からわからないことでした。日本では、弘法大師の昔から池を掘り、灌漑用水を引き、堆肥をつくり、収穫を上げる努力をしてきたのにラオスではあまりそういうことをしないのはなぜか。ラオスでは、日本のように、一ケ所に何百年もくらし続けるという感覚はなく、取れなくなったら、別の場所でまた村を作るといいます。分解した家の部材を担いで歩いている写真は印象的でした。今は一応移動を禁じられているのですが、ラオスでは伝統的に土地を所有するという意識は希薄なのかもしれません。

私たちは、ラオス像を作りつつありま[illegible]。この勉強会は[illegible]9月JVC ラオス駐在員名村さんの帰国報告会でいったん終わりとします。そこで、これまで勉強したもの[illegible]を崩し再構築したいのです。そして、自分たちの足で歩き、味わい、感じたときに、また崩し、再構築し、そうやって柔らかな頭と感性で、モザイクなラオスに近つきたいと思います。難しさにひるまず、まちがいをおそれずにです。その過程はとても大切で、楽しいものだと確信しています。　（ラオスチーム　久保田　由紀子）

現地発

ラオス子ども事情

ラオスの元気な子どもたち

前回は、「子ども好きなラオス人」について書いた。今回は、ラオスにおける子ども事情の、「光と影」の、影の部分に触れてみたい。「ラオス人の子ども好きはすばらしい」といつも思っているが、一方で、貧富の差の激しいアジアならではの、胸がつぶれるような光景に出会うのも事実だ。

以前、ある町のなじみのゲストハウスに泊まったときのことだ。女性オーナーはゆったりした笑顔で歓迎し[illegible]くれる。小学生の娘がいて、いつもかわいい服を着て、日本製のぴかぴかの4WDで学校に通っていた。宿には、「親戚の子」という中学生くらいの少年もいて、シャイな笑顔に幼さが残る。オーナー親子といつも一緒にご飯を食べているが、基本的には、4WDで学校に通う娘とは一線がひかれていて、「労働力」であるらしい。私が「ランドリーサービス」を頼んだある日、部屋のドアから出ると、目の前の庭の水道で、少年がたらいで私の服を洗っていた。なんだかいたたまれない気持ちになった。

また別のゲストハウスでのこと。オーナーは仏頂面の商売人という感じ。一階が食堂になっており、その隅に、粗末な服を着た、4,5歳くらいの女の子が、一人ぽっちで座って、米のごはんをぼそぼそと食べている。大人たちは彼女に笑顔ひとつ向けず、ここの子どもではないのはあきらかで、いかにも「置いてやっている」という感じだ。「客の目」なんてまったく気にしないのがアジア的。夜になると女の子は、ロビーや廊下の床に転がり、毛布にくるまって眠っていた。想像するに、親戚の子どもを事情があってここのオーナーが預かってやったが、その親とは仲がよくなかったので、迷惑だし、かといって労働力にもまだならないし・・・・・という状況なのではないだろうか。

この光景は私を暗澹たる思いにさせた。けれども、日本から「児童虐待」のニュースが届くたびに、この少女を思い出す。日本の「密室育児」が招く悲劇よりも、堂々とあけっぴろげなラオスのあの光景のほうが、実はまだ救いがあるのではないか、と。　名村　雅代（在ラオス）

ネパール
識字は暗闇を照らす光

これまで、現地からの報告はSOARS代表のニルマラさんや顧問のシュレスタさんからのものと決まっていました。ネパールチームでは、SOARSの事務局や主力メンバーたちがもっと力をつけて、意思決定に参画し、私たちと英語で連絡を取れるような体制作りを提案してきました。このところ、事務局長のラメスから、頻繁に連絡やレポートが来るようになり、嬉しい限りです。

ナマスカール　　ラメス・マハルジャン

マオイストの闘争は激しさを増し、銃撃戦で数多くの犠牲者が出ています。アルジュン（ローカル・スタッフ）の住む地域の電話線がすべて切断され、しばらく極西部との連絡が途絶えていましたが、識字教室の情報を入手しましたので、お送りします。

識字教育が住民の生活に及ぼした数多くの成果には目を見張るものがあります。識字教室に参加する前、人々は衛生面に注意を払わず、食事前に石鹸で手を洗う習慣がなかったのですが、今では大部分の人が手洗いを実行しています。また自分たちの食べる皿で犬に餌をやることもなくなりました。村で喧嘩が減ったことも主な成果の一つです。グループ活動に参加することにより、友好的な関係が築かれています。

以前は、教育が大切だと思う村人はいなかったので、学校にはあまり生徒がいませんでしたが、今はどの学校にも生徒が大勢います。あるNGOの調査によると、生徒が増えたのは、両親や家族が文字を学んだということがその大きな理由だということです。

識字教室に参加するまで、人々は人権について知りませんでした。顔見知りとしか話さず、役所はこわい所だと思っていました。今は顔見知り以外とも、役所の人とも話すことができます。（公共のサービスを利用するようになりました）

識字教室に参加した多くの人たちによって、助け合い基金が立ち上げられました。メンバーが、可能な金額を定期的に納め、それを蓄えておき、36パーセント以下の利息で金を借り、家族に必要なものを調達しています。以前は、莫大な利息を払って金持ちや金貸しから金を借りていました。20年位前には、金貸しから金を借りると、借りた金額の最後の位に0を付けて、例えば2,000ルピー借りると20,000ルピー返さなければならなかったのです。今でも金貸しから借りると60～72パーセントの利息ですが、そういう所からは借りずに、殆どの人はグループ助け合い基金を利用するようになりました.

教師たちは、村の発展のため熱心に働いており、住民の意識改革に貢献できる機会を得たことを誇りに思っているようです。
また、生徒たちは、「識字が暗闇に光を与え、目を開いてくれた」と、地球の木の皆様に感謝しています。更なるご支援をお願いいたします。　SOARS事務局長　ラメス・マハルジャン

多文化共生の街 サンフランシスコから

友だちはルーツも様々（左から3人目が筆者）
ゴールデンゲートパークにて

私は今、サンフランシスコでTESOL（Teaching English to Speakers of Other Languages）を専攻しています。英語を母国語としない人たちに英語を教えるための修士課程で、世界中から集まった留学生と共に英語教育を学んでいます。地球の木との出会いは、母を通してでした。中３の時にネパールのニルマラさんが我が家にホームステイし、2000年、ネパール・スタディツアーに参加した折に会員になりました。私が2年間サンフランシスコに住んで、今、感じていることをお伝えしようと思います。

melting potという表現は、日本でもよく耳にする言葉でしょう。辞書によれば、「人種や文化などのるつぼ。特に米国のことをさすことが多い」とあります。このmelting potが意味することは、何でしょうか？様々な国からやってきた、異なった文化を持つ人々が、一つの場所に集まり、そこで溶け合っている、と解することができると思います。私の住むサンフランシスコは移民が多く、多文化共生の街ですから、いろいろな人種、文化をバックグラウンドとする人たちが集まっています。それだけではなく、サンフランシスコは去年、同性愛者同士の結婚を認めたことでも知られているように、sexual orientation（性的志向）に関しても寛容な街です。それらの人々が溶け合って住んでいる。これまでは、溶けて一つになっている、と考えていました。

ところが、留学して1週間目に受けた留学生用オリエンテーションで、異文化共生についてのレクチャーがあり、民族学の先生が「melting potは古いコンセプトです」というではありませんか。一体新しいコンセプトとは何なんだろう？とびっくりして聞いていると、先生は言いました「サラダ・ボール」と。一つ一つの材料がナベに投げ込まれ、そこで溶けてしまって、元の形をとどめていないスープではなく、一つ一つの材料は形を留めたまま一つの容器の中に入り、かつ、他の材料と混ざることで、ハーモニーのあるサラダになる。これがサラダ・ボールです。アメリカという国で生きるために、自分の母国語、母国の文化を忘れ去ったり、押し殺してアメリカナイズされるのではなく、自分のアイデンティティは保ったまま、新しい国、アメリカの一員になる、と解するのだそうです。私はこの新しいコンセプトに大変心打たれました。留学生として、日本人としてのアイデンティティをしっかり持ったまま、異なった人種や文化を持つ人々と調和を持って共生していくことが理想だと思いました。それと同時に、近年、外国籍の人々が増えている日本でも、彼らが、自分らしさを失わず、母国の文化に誇りを持ちながら日本という単一民族、単一言語の島国で、尊厳を持ちながら共生できる社会を創っていきたいと思います。

乳井　暁絵（在サンフランシスコ）

「あーすフェスタかながわ」みんなで育てる多文化共生

「あーすフェスタかながわ」は、毎年5月の２日間、本郷台駅前にある地球市民かながわプラザで開かれているおまつりです。延べ２万人が来場するこのまつりではいろいろな国の人たちに出逢えます。それもそのはず。神奈川県に暮らす外国人たちが、NGOやボランティアと共に作っているおまつりだからです。15万人の外国籍県民が住む神奈川県で、国籍や文化の違いを理解し合い、外国人にも暮らしやすい社会を実現することを目指しています。

外ではワールドバザールや世界屋台村。ステージでは各国のパフォーマンス。ホールでは外国籍県民会議のシンポジウムや映画上映。各部屋では「しゃべり場」や子どもに人気の踊りやあそびのワークショップがにぎやかに開かれます。

地球の木は2000年の第一回から実行委員として参加し、企画にも関わってきました。今年はしゃべり場とカレーのワークショップを担当し、ワールドバザールと世界屋台村にも出店しました。地元なんぶのメンバーや事務局、会員が家族の応援も得て大奮闘。

来年はのぞいてみませんか？収穫あること間違いなしです！

（丸谷　士都子）

初めてのアジアンフェア体験

スタッフになって初めてのアジアンフェア。当日は朝からどしゃ降り。どうなることかと思いましたが、逆に、心配して会員の方々がのぞきに来てくださったり、会費を払いに来てくださったり、近所にお勤めの方がどんな所かと思って、と訪ねてきてくださったり。会員さんが寄付してくださった手作りクッキーも大好評。地球の木カレーやタピオカミルクを片手に、地球の木のことなどわいわいと語り合いました。私自身、名前と顔が一致して、ぐっと近づけた気がします。顔が見えるって大事。売上げは29,118円。ご協力ありがとうございました。

次回は9/28（水）開催で、「地球の木カフェ」とする予定です。会員の方にはコーヒー無料サービス！お気軽に事務所へどうぞ。出会いましょう、話しましょう。つながりましょう。グッズも見ていって下さいね。

（事務局新スタッフ　関川　渓子）

スタッフが変わりました

ありがとう

事務局元スタッフ　生川 理佐

会員の皆さま、お世話になりありがとうございました。この2年間地球の木で得たものは計り知れません。特にたくさんの方々との出会いは、一生の宝物です。現在私は、八ヶ岳高原のレタス農家に収穫バイトに来ています。土にまみれ、太陽の日差しを全身に浴び、雨を背中に受けながらの作業は、大変ではありますが、豊かな生き方だと実感しています。これからは一会員として活動に参加していきたいと思います。

よろしく

事務局新スタッフ　関川 渓子

横浜で生まれ各地を転々としたのち、今年4月に戻ってきました。国際政治学7年→結婚→英語講師6年→地球の木。子供の頃から国際協力の仕事をしたいと思い続けてきて、やっと第一歩を踏み出せた感じです。会員の皆様一人一人の持っていらっしゃる多様な世界に出会えるのが楽しみ。"誠実に着実に"をモットーに、ここで育っていけたらと思います。

はじめまして

事務局新スタッフ　佐藤　葉（よう）

地球の木とのご縁は、現在28歳の息子がネグロスのスタディツアーに行った時にできました。今まで私はライターとして仕事をしながら、たまに、思い出したように国際協力関係のボランテイアをしてきました。事務局は縁の下の力持ちなのですね。地球の木を支えられるよう、努力したいと思います。よろしくお願いいたします。

ヨッコのグローバル eye

「ほっとけない」と「もったいない」2つのキャンペーン

横川 芳江

サッカーの中田選手が白い腕輪（ホワイトバンド）をして指を3回鳴らしているCMがある。世界のNGOが連携して行う「ほっとけない世界の貧しさキャンペーン」の広告。今、3秒に一人の子どもが貧困のために死んでいる。世界の首脳は「2015年までに世界の貧困半減」という「ミレニアム開発目標（MDGs）」を設定したが、9・11以降、「テロとの戦い」に動き、目標は遠いものとなっている。今年はG8サミット、国連総会、WTOと大きな会議が続く。首脳たちがこの目標を「ほっとくことなく」最優先課題として取り組むよう、意思表示をすることが必要と呼びかけている。

［MOTTAINAIキャンペーン］はノーベル平和賞を受賞したワンガリ・マータイさん（ケニア副環境相）が来日中に「もったいない」という言葉に深く共鳴した事から始まる。資源をめぐる戦争を防ぐため、世界中で"もったいないキャンペーン"に取り組もうと国連で演説した。毎日新聞社がTシャツの売上でマータイさんの森林保全活動を支援するなど、各地域で取り組みが始まっている。

どちらも、世界が公平な社会となるよう構造を変えていこうという取り組みである。

「ほっとけない、世界のまずしさ」キャンペーン
地球の木も賛同団体になりました！

ホワイトバンド（300円）は事務局で販売しています。
お知り合いにも声をかけて、輪を広げましょう。
お気軽にお問い合せ下さい。

未使用切手・書き損じハガキ募集中

皆さんからご寄付いただいた未使用切手は、20,214円となりました。引き続きよろしくお願いします。

活動報告（5月～8月抜粋）

5月
- 28~31日　DPRK人道支援国際NGO会議（北京）参加
- 30日　洗足学園中等部出前講座「マジカルバナナ」

6月
- 2日　JCNCジャニスさん・大橋さん報告会
- 4日　東戸塚デポー15周年まつり（なんぶ）
- 5日　明治学院大学とつかまつり（なんぶ）
- 8日　ラオス連続学習会「宗教・農業」
- 9日　第2回理事会
- 10日　ブランチ連絡会（事務所）
- 12日　鎌倉女学院国際セミナー「ネパール・タルー族の家族ゲーム」
- 16~19日　韓国NGO「地球村分ち合い運動」来日
- 22日　アジアンフェア
- 26日　ファンキーキッズ出前講座「ぶっ飛びアジア！ラオス篇」
- 29日　ラオス連続学習会「文化」
- 29日~7月6日　南北コリアと日本のともだち展（東京）
- 30日　横浜市西区小中学校教員研修会講師「学ぶことは生きる力」

7月
- 3日　インターナショナルフェスティバル（川崎市国際交流センター）
- 7日　第3回理事会
- 13日　ラオス連続学習会「村のくらし・歴史」
- 21日　生活クラブ横浜北　親子企画「マジカルバナナ」
- 25日　生活クラブ横浜北　VISION講座　子ども企画「マジカルバナナ」
- 26日　ブランチ連絡会（カンボジアレストラン　チギャン）
- 27日　ラオス連続学習会「森林資源」

8月
- 4日　第4回理事会
- 5日　開発教育協会全国研修会　ワークショップ体験講座担当「マジカルバナナ」
- 11日　横浜隼人高校出前講座「ネパール・タルー族の家族ゲーム」
- 23日~28日　ラリーさん招聘プログラム

学生会員は半額に！

地球の木ユースクラブ発足にともない、学生会員枠を設けました。年会費は一般の半額、3,000円。
フレッシュな風をお待ちしています。ユースクラブにもぜひご参加を！

ブランチ連絡会にぜひどうぞ

月一回「ブランチ連絡会」を開催しています。誰でも参加できます。「ずっと会員だけどなんだか地球の木って遠いなあ」と感じていらっしゃる方、「会員総会、今年もまた出られなかったわ」という方、ぜひどうぞ。一回だけの参加ももちろんOKです。地球の木の活動を話し合ったり、会員同士が交流したり、身近な地球の木がここにあります。
次回の日程
日　時：9月15日(木)　10：00～
場　所：地球の木事務所
※10月は12日(水)です。詳細は地球の木HP、Asian Wind、または事務局まで。

シンポジウム ～ラオスの未来と国際協力～

第1部 講演「織物と女性の自立」
（ドアンドゥアン・ブンニャウォンさん）
第2部 パネルディスカッション
「ラオス人の望む未来像ーNGOは何をすべきか」
星野昌子さん（JVC特別顧問）、
チャンタソン・インタヴォンさん
（NGO「ラオスの子ども」代表）
日　時：9月19日（祝日）　13：00～
場　所：文京区民センター　3A会議室
参加費：500円
主　催：ラオスシンポジウム実行委員会
協　力：地球の木ほか

オープン・オフィス「地球の木カフェ」

日　時：9月28日(水) 11：00～18：00
場　所：地球の木事務所
「アジアンフェア」改め、オープン・オフィス「地球の木カフェ」。アジアングッズ販売の他、支援地のビデオや写真もご覧になれます。チラシのチケットで、コーヒー、紅茶無料サービス！手作りお菓子もどうぞ。この機会にぜひ事務所に遊びに来てください。
ビデオ上映時間　11：00～／13：00～/15：00～/17：00～

クリック募金ありがとうございました

4月から3カ月間行われた地球の木に対する「あしたのもとクリック募金」が、6月末日に終了しました。毎日クリックをしたり、多くの方に呼びかけてくださった皆さん、ご協力ありがとうございました。
☆募金結果☆
4月：68,938円　5月：76,203円　6月：82,038円　合計227,179円
フィリピン・ネグロス島の「レッツ・ゴー！ファミリープロジェクト」に使われます。

今年も地球の木は恒例のお祭りに参加します

■グローバルフェスタJAPAN2005

国際協力に携わる団体が一堂に会する日本一大きなイベントです。
日　時：10月1日(土)、2日(日)
場　所：東京・日比谷公園
地球の木は・・・活動紹介、グッズ販売、世界まるごとゲームラリー参加

■横浜国際フェスタ2005

地元横浜の国際協力まつりです。
日　時：10月29日(土)、30日(日) 10：30～17：00
場　所：パシフィコ横浜　展示ホール
地球の木は・・・活動紹介、グッズ販売

カンボジア報告会と学習会

報告会　「カンボジアの子ども、食、生活」
講　師：松本清嗣さん（「るしな」代表）
日　時：10月12日（水）　10：00～12：00（予定）
場　所：都筑区役所2階　都筑公会堂会議室
参加費：500円（お菓子付き）

学習会　「カンボジアの現状と日本のかかわり」
講　師：松本清嗣さん（「るしな」代表）
日　時：10月15日（土）　14：00～16：00
場　所：地球の木事務所
参加費：500円（お菓子付き）
詳細は事務局までお問い合せください。ホームページでもお知らせします。

マジカルシュガー教材作りに参加しませんか

甘い砂糖から、甘くない世界の現実を考えます。
日　時：毎月第1月曜日　13：30～15：30
場　所：地球の木事務所

ネパールスタディツアー2006

輝く瞳の若者たちと語り合おう！
日　程：2006年2月12日(日)～2月19日(日)
訪問地：カトマンドゥ、ラリトプル、ナガルコット
参加費：21万円（学生20万円）予定
協　力：ネパールNGO SOARS
内　容：SOARS人材育成センターで活動するHelpful Student Clubの若者たちと、教育について、地域づくりに若者たちはどう貢献できるかなど、語り合い交流します。

地球の木情報メールマガジン
"Asian Wind" を知っていますか？

新鮮な情報を満載して、月2回お届けしています。
購読ご希望の方は、「購読希望」と書いて、chikyunoki@e-tree.jpまでメールをお送りください。

★ボランティア募集！
発送作業、イベント手伝いなど

R100 この印刷物は古紙配合率100%再生紙を使用しています
PRINTED WITH SOY INK 環境に配慮した「大豆インキ」を使用しています